



私は旭農業高校の卒業生です。これまでほかの学校を2校経験しました。旭農業高校が3校目で、赴任してから10年になります。旭市は畜産業が盛んで肥育農家や酪農家が卒業生に多くいます。生徒達の就職先にもなってくれる農場もありすごくありがたいです。ここ何年かで肥育や酪農に就く生徒が増えましたが、うちの高校では畜産科に入ったからといって、卒業後畜産・酪農業界に進むのは稀です。しかしせっかくこの学校に入学したからには、普通科の高校では学べないような働く力を身につけて、社会に出たときに負けないような人になってほしいと思っています！（安藤 善剛先生）



小さい頃から動物が好きで、家の近くで動物に関わる旭農業高校の畜産科を選びました。2年生から養鶏、養豚、酪農、愛玩と専攻を選択できるなかから酪農専攻を選びました。共進会では、目標だったリードマンをやらせていただきました。最初は私に務まるかなと不安でしたが、本番は牛がとても協力的で最後まで上手にできました。将来の夢はまだ決まっていませんが、人と関わる仕事に就きたいと思っています。旭農業高校で学んだ“言われる前に動ける行動力”を活かしていきたいです。（3年生・勝股 琴美さん）



2022年6月に千葉県の高校で唯一となる鶏・豚・牛の農場 HACCP 認証を取得しました。認証に向けて動いてくれたのはOB・OGの生徒達ですが、この認証を受けてから在生も目的意識が高まりました。厳しい審査をクリアしなければならないので、生徒達も自覚を持って活動ができています。



概要

千葉県立旭農業高等学校 畜産科 酪農専攻
畜産科(3年生30名、2年生26名、1年生31名計87名)、酪農専攻(3年生13名、2年生8名計21名)
繋ぎ牛舎(総頭数16頭、搾乳牛6頭)
活動内容：牛・豚・鶏・愛玩動物の管理を行なっている。酪農専攻の生徒達は日々の乳牛管理に加え、共進会にも積極的に参加しビッグ・ショウへの出場を目標に飼養管理や調教を行なっている。それら徹底した管理や整理整頓などの活動が評価され、2022年に農場 HACCP の認証を取得した。
担当教諭：安藤 善剛先生、馬渡 太治先生

千葉県立旭農業高等学校

NO.9

酪農に憧れや興味を抱き、実践をとおして酪農を学ぶ学生達は今、何に興味を持ち、どのような活躍をしているのか？
未来の酪農業界を担う期待の星を紹介！



学校が所有する圃場は近隣の農家さんに貸出しています。学校には農機具がないため牧草の管理ができません。牧草の管理・収穫は農家さんに行なってもらい、学校にも提供してもらっています。また、卒業生や近隣の酪農家さんからはホルスタインやジャージー牛も提供してもらっており、地域の農家さん達と密接な関係を築いています。



動物が好きで旭農業高校の畜産科を選びました。子牛に哺乳しているときが最も好きな時間です。哺乳瓶をかなり奥まで入れて哺乳するので、毎回「大丈夫かな。苦しくないかな」と不安になりますが、美味しそうにミルクを飲んでいる子牛を見ると安心します。バレーボール同好会に所属しているので、放課後は友達とバレーをして身体を動かすことが好きです。将来は人と関わる接客業などに就きたいです。（3年生、梶山 智宏さん）



この学校にきて6年目になります。6年前に来たときから酪農専攻の実習担当教諭として自分自身、生徒達と一緒に日々成長してきました。生徒達にはこの畜産科で、生きる力や考える力を身につけてほしいと思っています。誰かに言われてから行動するのではなく、自ら考えて動ける人になってほしいですね。実際に今いる生徒達は、入学した頃とは顔つきや行動が変わってきました。牛も生徒も可愛いです！（実習担当、馬渡 太治先生）



畜産科で充実した日々を送っているおかげで高校生活があっという間のように感じています。牛に耳標をつける作業で牛が痛っている様子を見て、命をいただくことの大切さを学びました。酪農は高校3年間の良い思い出として卒業後は一般企業に就職予定です。ここで酪農には「気合」「力」「強い精神力」が必要だと学びました。卒業後もここで学んだことを活かしていきたいです。また、卒業までに私が担当する牛が分娩する姿を見たいです。（3年生、宮内 磨里華さん）



学生牛部は今！